

Library Navigator

立命館大学 図書館だより
ライブラリーナビゲーター

ISSN 1345-3343

Vol. 128

Fall/Winter 2021



図書館イメージキャラクター：よむりす

[特集1] タイプ別レポート

図書館活用 Good Practice

[特集2] 2020年度

図書館利用実態 アンケート結果報告



RITSUMEIKAN
UNIVERSITY

図書館活用 Good Practice



みんな、学生生活で図書館をどう使っているのだろうと思った経験はありませんか？図書館が提供しているサービスは書棚に並ぶ資料だけではなく、電子書籍やデータベース、ぴあやセミナールームなどの施設、レファレンスや他大学資料の借用・複写、図書館で実施している企画・イベントなどさまざまなサービスを提供しています。今号では、図書館を上手く学生生活の中に組み込んで、自己の成長につなげている方にスポットをあてました。ぜひ、みなさんにとっての図書館の使い方をみつけてください。



TYPE #01

図書館イベントの参加で、自分の世界を広げています

黒川 依菜

文学部人文学科 1回生

Q1 所属学部で勉強していることや研究テーマについて教えてください。

文学部で日本史を専攻しています。特に、鎌倉時代後期に興味があるので、その時代を研究したいと思っています。

Q2 週に何日大学へ来ていますか？よく利用する図書館とその利用頻度を教えてください。

大学で授業があるときは、毎日大学に来ています。図書館は、平井嘉一郎記念図書館をよく利用していて、週3回ほど利用しています。

Q3 図書館の企画はどんな時に活用しますか？具体的な活用方法を教えてください。

7月に開催されたOIC学生ライブラリースタッフ企画、ぴあ講演会「何気ない日常に彩りを～色彩の魅力と不思議～」に参加しました。図書館で行われるライブラリースタッフ企画は申し込みをすれば簡単に参加できるため、これからも少しでも興味のある企画があると参加しようと思っています。また、図書館でのピアサポーターにも興味があったため、学生ライブラリースタッフ企画募集説明会にも参加しました。

私は図書を検索するために図書館のホームページは活用していますが、図書館が主催する企画やスタッフ募集などのお知らせは、主にmanaba+Rから情報を得ています。また、図書館に行ったときには、興味のある企画の情報を得るために館内のポスターにも注意を払っています。

Q4 図書館の企画を活用して自己の成長につなげている点を教えてください。

普段は経験しないことでも、浅く広くものごとを知ったり、挑戦したりすることができるのが図書館主催の企画です。企画を通じて知識を獲得することで、日常生活やレポート作成において理解したことをアウトプットしたり、工夫をしたりして充実した学生生活を送ることができます。未知の世界に飛び込むことを積極的に行っていることも自分の経験値を上げる機会となっています。

Q5 あなたにとって、図書館とはどんな存在ですか？

小学生の頃からよく本を読んでいたため、図書館は昔からとても身近な存在です。私は現在文学部で日本史を専攻していますが、ある小説との出会いが日本史を専攻しようと思ったきっかけとなっています。私にとって図書館は、自分の専攻の決定に影響を与えた運命の1冊に出会えた大切な場所です。また、気軽に入ることができ、いろんな本を読んで、自分が経験したことのないことを疑似体験することで、自分の将来や自分の思考が変わったりする機会を与えてくれる場所であり、変化を最も感じやすい場所だと思っています。本を一冊読むごとに一つ上の自分にアップグレードされているのを感じます。

Q6 2021年春学期（コロナ禍）を振り返って、あなたが学生として苦労していること、また、工夫していることなどがあれば教えてください。

コロナ禍で1番困ったことは、友人作りです。私は京都出身でないため、入学当初の4月は自分の知り合いが全くいない状況でした。また、大学から1人暮らしが始まり、慣れない生活をしていたため、とても不安でした。そのため、早く仲の良い友人を作りたいと思っていたのですが、新型コロナウイルス感染拡大のため授業が始まった直後にオンライン授業に切り替わったため、友人作りに苦労しました。そこで、授業の繋がりがだけでなく、他の繋がりを作ろうと思い、早めにサークルに入りました。私が所属しているところは毎週集まって活動が行われているため、すぐに繋がりを作ることができました。



Q7 図書館をうまく使えるようになる前と使えるようになった後で時間の使い方や学修の習熟度などに変化はありましたか？ 変化があれば教えてください。

まだ立命館大学の図書館を利用し始めて5ヶ月ほどです。大学図書館の使い方については使いこなせているとは言えませんが、高校までの図書館での読書とは違い、多くの専門書があるので、興味を引くタイトルを見つけると手に取って読んでいます。多くのことを知ることができ、好奇心が刺激されています。しかし、本を探すため

に図書館内の書架を見ているのですが、多すぎるがゆえにどこにどのような本があるのかをいまだに把握しきれません。自動書庫にも本があり、特定の本を見つけるのはRUNNERS OPACを用いて探すことができるのですが、それ以外の本を見つけるのは少々難しいと思っています。ジャンルごとや書架ごとにおすすめの図書館からの情報があれば図書を探すことがもっと面白くなれるのではないかと考えています。また、自動書庫にある本は検索で見つけられなければ、読むことができないので、どのような本が自動書庫にあるのかが分かるになればより探したい本に出会えるのではないかと思います。レファレンスサービスを活用するなど利用方法を身につけて、もっと図書館をうまく使えるようになって多くの本にふれたいです。



Q2 週に何日大学へ来ていますか？よく利用する図書館とその利用頻度を教えてください。

今年の春semesterは、週に3回大学に来ていました。よく利用する図書館は、メディアセンター、メディアライブラリーとOICライブラリーです。メディアセンターは週1回利用しています。メディアセンターは、よく利用していた時には、週に2回ほど利用していました。OICライブラリーは月に1回~2回ほど利用しています。

Q3 図書館の「データベース」や「電子書籍」はどんな時に利用しますか？具体的な利用方法を教えてください。

データベースは、主に研究室でのゼミ活動の時に利用しています。ゼミでは、自分の研究に関する論文をデータベースから探し出して、書かれている内容をまとめて発表をしています。英語で書かれた論文を探すときには、「[ACM Digital library](#)」を使用することが多いです。ACM Digital libraryは、コンピュータ分野全般を対象とする国際学会が提供するデータベースで、研究に関する論文がたくさん見つかるため、よく利用しています。また、日本語で書かれた論文を探すときは、主に「[CiNii Articles](#)」を利用しています。CiNii Articlesは、日本語で書かれた論文を分野に関係なく検索できるので、自分の研究に役立つ論文を偶然発見できたりもします。

「[Maruzen eBook Library](#)」は、ゼミや授業で必要な本や教科書を入手するときに利用しています。必要な本はMaruzen eBook Libraryからダウンロードできる場合が多いので、書籍代や教科書代を節約することができて、とても助かっています。

大学のVPNを利用することで、大学で使える電子資料を閲覧することができます。研究活動をする上で、非常に役立つと思うので、図書館のデータベースと一緒に使ってみてください。

Q4 図書館の「データベース」や「電子書籍」を活用して自己の成長につなげている点を教えてください。

図書館のデータベースを活用して、研究活動に役立てています。ゼミ活動のときは、発表で取り上げられている論文をデータベースから探して、自分の研究に応用できるか考えてみたり、関係する論文を探し出したりするときに活用しています。また、論文を書くときには、データベースで自分の研究テーマに関するキーワードを検索して、参考文献を探すときにも活用しています。

また、研究活動以外にも、英語力や教養を身につけるために活用しています。英語の経済ニュース「[Financial Times](#)」で英語のニュースに挑戦してみたり、通学中に電子書籍で読書をしたりしています。また、「[日経テレコン21](#)」は最新のニュースが配信されているので、すきま時間に今日のニュースを読んだり、最近のIT業界の動向を確認したりしています。

Q5 あなたにとって、図書館とはどんな存在ですか？

私にとって図書館とは、知りたいことをなんでも知っていて、頼ることのできる心強い存在です。ゼミや研究活動では、ほぼ毎回と言っていいほど図書館のデータベースを利用します。何か知りたいことがあったら、まずはデータベースで調べてみようといった感じで、スマホやパソコンを片手にレポートを書いたり研究活動を行っています。図書館という頼ることのできる心強い存在のおかげで、大学での学びが豊かになっているのではないかと感じています。



TYPE #02

データベースや電子書籍をフル活用して、大学の学びを豊かにする

松野 光喜

情報理工学部情報理工学科 4回生

Q1 所属学部で勉強していることや研究テーマについて教えてください。

情報理工学部 システムアーキテクトコースに所属しています。学習場面における行動変容を促すための、国民性の違いを反映したナッジについて研究しています。これだけではよくわからないと思うので、簡単に説明いたします。私の研究は、日本人とベトナム人の国民性の違いに注目して、学習場面でより良い学習に導くことができる刺激を見つけることです。より良い学習かどうかを判断するためには、エンゲージメントという指標をアンケートから取得するのですが、私の研究ではセンサなどを用いてエンゲージメントを測る方法を研究しています。



Q6 2020年と2021年（コロナ禍）を振り返って、あなたが学生として苦勞していること、また、工夫していることなどがあれば教えてください。

コロナ禍を振り返って、一番苦勞していることは、他の学生とのコミュニケーションの取りづらさだと思います。大学でのコミュニケーションがなくなってしまうと、友だちや誰かと会って直接話す機会がなくなったり、ちょっとした繋がりから新しい人間関係を作ったりすることが難しくなります。「最近、授業が難しくってわからないけど、みんなはどうなんだろう...」なんて思ったときに、オンライン授業だと他の学生に聞きにくくて、どうすれば良いのか不安になるときがあります。そこで私は、もしかしたら相手も同じかもしれない、と思って誰かに話しかけることがあります。ブレイクアートルームなど少人数で会話ができるようなときに、「最近難しくなってきたけど、ついていけますか?」と話しかけると、「私も難しく困ってました」のように、共感してもらえることがあります。このようにして、自分と相手の状況を知ることで、自分だけじゃないんだ、と感じて安心できることが多いです。

Before/After 私の図書館活用ビフォア、アフター

Q7 図書館をうまく使えるようになる前と使えるようになった後で時間の使い方や学修の習熟度などに変化はありましたか？ 変化があれば教えてください。

図書館をうまく活用できるようになって、大学での学びにより熱心になりました。図書館を活用する前は、分からないことは諦めたり、適当に解釈したりして、良い成績をとるのにはなかなか苦勞しました。しかし、図書館をうまく活用できるようになった後は、知りたいことをデータベースや本から探し出せるようになり、分からないことをもっと知りたいという気持ちが強くなりました。また、空いた時間にニュースを読んだり、電子書籍を読んだりして、すきま時間を有効に活用できるようになりました。図書館の本やデータベース、電子書籍などを活用することで、大学での学びに良い影響を与えてくれていると思います。



ている時間が多いですが、図書館に来ると不思議と孤独を感じません。周りに人がいるというのももちろんですが、図書館が私を応援してくれているような気がしています。実際に、図書館に来るとモチベーションが上がるのは先述したとおりです。もうすぐ卒業が近くなってしまいましたので、図書館が利用できなくなることが寂しくて仕方ありません（笑）。



Before/After 私の図書館活用ビフォア、アフター

Q7 図書館をうまく使えるようになる前と使えるようになった後で時間の使い方や学修の習熟度などに変化はありましたか？ 変化があれば教えてください。

オンライン授業が始まったばかりの頃は自宅で全く勉強する気が起きず、公認会計士試験の勉強も手が付けられていませんでした。しかし、去年の秋から毎日図書館に通うようになり、勉強する習慣を身に付けることができました。今では自宅でも学習に取り組めており、勉強の効率を大幅に上げることができました。大学の単位も無事に取り終えたので、これからも図書館を利用して試験合格まで頑張ろうと思います。

Q6 2020年と2021年（コロナ禍）を振り返って、あなたが学生として苦勞していること、また、工夫していることなどがあれば教えてください。

実は、勉強面で苦勞していることはほとんどありません。自分のやりたい勉強はほとんどオンラインでできるからだと思います。私は元々京都からBKCに通っていたこともあって、通学時間にストレスを感じたり、家に帰るとすぐに疲れて寝てしまうことが多かったのですが、コロナ禍で通学する必要がなくなりむしろ負担が減っている部分もあります。

ただ、友達と会う機会は減ってしまっているの、時々電話で近況報告などはしています。



TYPE #03

目標をもって努力する学生を応援してくれる存在が図書館です

柳本 瀬玲奈

経済学部経済学科 4年生

Q1 所属学部で勉強していることや研究テーマについて教えてください。

経済学部経済学科で、国際政治経済学を勉強するゼミに所属しています。

Q2 週に何日大学へ来ていますか？よく利用する図書館とその利用頻度を教えてください。

現在は平井嘉一郎記念図書館を週2回ほど利用しています。3回生の時は勉強を習慣化するためにほぼ毎日利用していました。

Q3 図書館の施設（びあら等）はどんな時に利用しますか？具体的な利用の方法を教えてください。

3回生の時はびあらの発話可能な場所でオンライン授業を受講したり、友達と話しながらゼミの研究を進めたりしていました。

現在は2階の座席で公認会計士試験の勉強をすることが多いです。白川静文庫・加藤周一文庫前の仕切りのある机は余計なものが視界に入らないのでとても集中できます。通信講座を受講していて、家

で勉強することも多いのですが、気分転換で図書館も利用します。

また、試験勉強では解答用紙などを大量に印刷する必要があるの、びあらの複合機は自宅のものよりも性能がよく重宝しています。去年は上限の1000枚までプリントアウトしていました。

Q4 図書館の施設（びあら等）を活用して自己の成長につなげている点を教えてください。

図書館を利用することで勉強の継続ができています。時々勉強のモチベーションが下がってしまうこともあるのですが、そんな時に図書館に行くことで強制的に勉強する環境を整えています。たくさん本と勉強している他の学生に囲まれることで、自分を奮立たせることができるからです。

3回生の時はこの継続力が実を結び、経済学部の論文大会で賞をいただくことができました。次は公認会計士試験で結果を出したいと思っています。

Q5 あなたにとって、図書館とはどんな存在ですか？

わたしのパートナーのような存在です。私は基本的に1人で学習し





TYPE #04

オフキャンパス・オンキャンパスに関わらず、毎日図書館を利用しています

JIA Bin

立命館大学大学院政策科学研究科博士課程前期課程 1回生

Q1 所属研究科と研究テーマについて教えてください。

政策科学研究科では高村先生のもと、中国の華北平原の農村を調査対象地域とし、中国の土地分割の風習について研究しています。村民が村内の土地の請負期間を無視して、土地を村民人数分に割り振る「割替え」という現象を調査し、村民たちが、土地の請負期間を無視する慣習に固執する原因を明らかにすることを目的としています。

Q2 週に何日大学へ来ていますか？ また、図書館を使う頻度について教えてください。

一週間に5~6日は大学に来て、共同研究室にて研究しています。実際OICライブラリーへ足を運ぶのは週に1日ほどです。その時は、最新の雑誌や新聞を読んだり、図書を借りています。共同研究室や自宅から、オンラインで図書館のデータベースにアクセスできます。英語基準の私のような学生にとっては、図書館が提供しているElsevierやSpringer等々の出版サービス無しには研究ができません。そういう意味では、私は毎日図書館を活用しています。

Q3 図書館の「サービス」はどんな時に利用しますか？ また、それらを活用して自己の成長につなげている点を教えてください。

「レファレンス・サービス」は、とても親切で便利なサービスだと思います。レファレンス・ライブラリアンのおかげで、さまざま

な参考調査についてアドバイスをもらえます。例えば、私は2020年の『中国統計年鑑』を探したい時があったのですが、図書館の検索エンジンで、2020年版の蔵書場所をうまく確認できませんでした。レファレンス・ライブラリアンに相談したところ、年鑑類の検索結果一覧から、さらに「巻号」をクリックし、年鑑の正確な年、場所、現在の状態を確認できることを、画面をみながら教えてもらいました。入学時の図書館利用に関するオリエンテーションでは、ここまで細かい操作については知ることはできませんでした。レファレンス・サービスは、研究をがんばる学生、特に新入生にとって、非常に価値があると思います。

「他館からの取り寄せ」は、学生が他のキャンパスや大学の図書館から著作や文献を借覧できる重要なサービスだと思います。私が研究科に入る時、指導教員からこのサービスがあることを教えていただきました。

大学の蔵書は、学部・研究科などによってそれぞれのキャンパスに収蔵されていますが、学生の興味関心のある図書資料は必ずしも所属のキャンパスの図書館に収蔵されているとは限りません。この取り寄せサービスは、学生が各図書館を駆け回る時間的・金銭的コストを省き、利便性を追求しているサービスだと思います。例えば、私はこのサービスを通じて衣笠キャンパスに保存されているフィリップ・ブラウンの著作『Cultivating Commons』を借りました。この本は日本の江戸時代の「割地」を教えてください、中国の土地の「割替え」を研究している私に気づきを与えてくれました。また、BKCに保存されている『写真が映えるデジタル処理のコツ』を借りて、自分の興味を養うのに役立ちました。

私はまだ“Inter Library Loan (ILL)”を使って、他大学から著作や文献を借りたことはありませんが、知り合いはこのサービスを通じて一橋大学から重要な研究資料を貸りています。需要があれば、必ず“ILL”も利用したいと思います。



Q4 あなたにとって、図書館とはどんな存在ですか？

図書館は私にとって、日本社会を理解するためのツールです。OICライブラリー2階北西側の語学書コーナーは、日本語を含む多言語の教材を提供しています。私は英語基準の学生ですが、日本社会を理解したいので、日本語を学ぶ必要があります。2階北東側には各種新聞が配架されています。新聞からより繊細な言葉を学び、各新聞社の立場や報道されている事件に通じて、多種多様な日本社会を観察するのが私の楽しみです。

3階と4階は日本語や外国語蔵書のエリアで、RUNNERS OPACで借りたい図書の請求記号を調べ、それを目指して書棚の間を探していることが多いです。ちなみに、4階入口付近には外国語の雑誌が多く配架されており、私は『亞州週刊』をよく読んでいます。東・東南アジアなど各地域の研究者の視点を学び、世界理解を深めています。

Q5 2020年と2021年（コロナ禍）を振り返って、あなたが学生として苦労していること、また、工夫していることなどがあれば教えてください。

このコロナ禍は研究を進める私にとって、向かい風と言えるでしょう。もし私の研究計画が順調であれば、2021年秋季学期に中国に帰り、農村田野調査をし、村民らの「割替え」に関する活動に関する調査をまとめる予定でした。けれども、厳しい入国条件により、自身の研究をオンラインインタビューに転換しなければなりません。

また、このコロナ禍で、対面講義がもたらす繊細な体験も失われていると思います。大学も先生たちもコロナ対策を徹底しながら教育活動を続けてくださっていますが、対面授業からオンライン授業への切り替えは、避けられるものではありませんでした。8階のウインドウォールの前に立ち止まり、窓の向こうの誰もいない共同研究室や窓の外のキャンパスで三々五々の人を眺めていることもあり、かつて賑やかだったキャンパスの光景を懐かしんでいました。

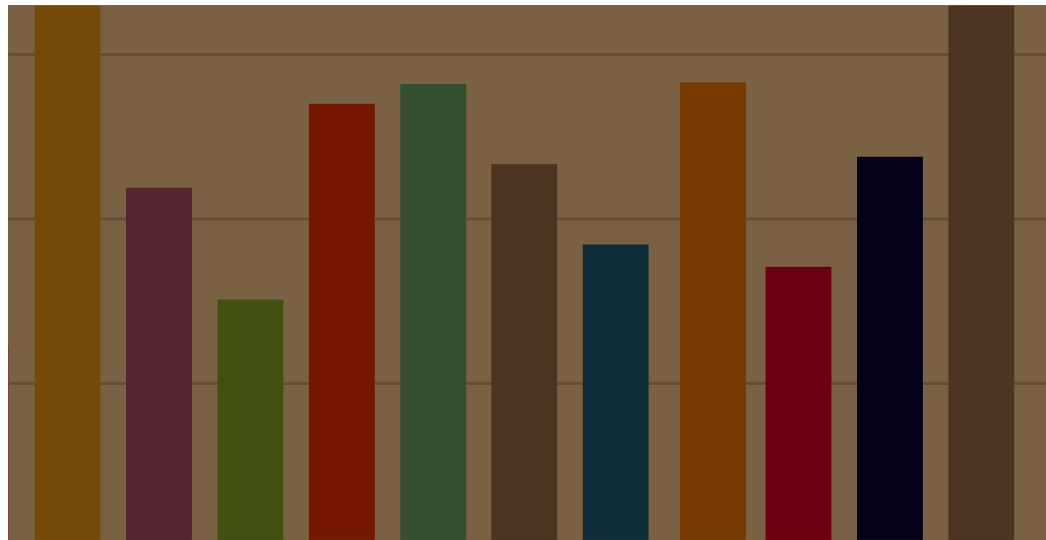
Before/After 私の図書館活用ビフォア、アフター

Q6 図書館をうまく使えるようになる前と使えるようになった後で時間の使い方や学修の習熟度などに変化はありましたか？ 変化があれば教えてください。

図書館を活用することで、大学生活によりよく適応でき、自分自身の成長を遂げることができると思います。



2020年度 図書館利用実態 アンケート結果報告



たくさんのご協力をありがとうございました。アンケート結果の一部を以下に公開いたします。

対象者：全学部生、全大学院生（約35,000人）

実施期間：2021年1月7日～1月29日

回答者数：5,298名

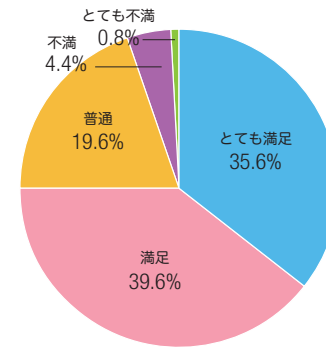
キャンパス別回答者数：衣笠2,362名、BKC1,852名、OIC1,034名、朱雀50名

※特記のない項目の下表「割合」の分母は全回答者数（5,298）を分母としています。

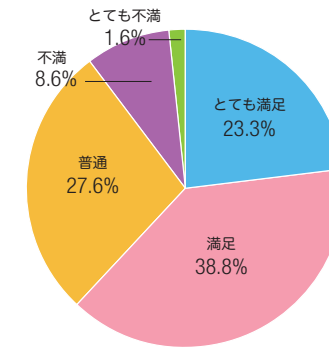
満足度について

※満足度については全回答者（5,298名）から「わからない」と回答した学生を除いた回答者数を分母としています。

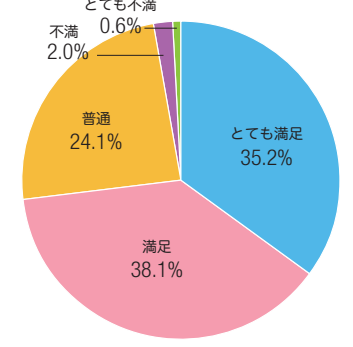
設備・環境（机・座席・空調など）



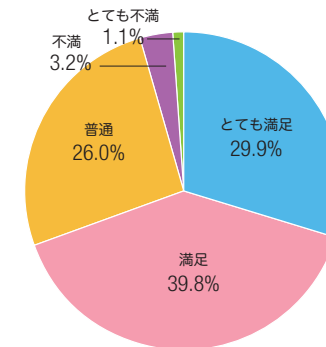
蔵書（資料の量・質・種類）



スタッフの対応（迅速さ・的確さ・親切さ）



図書館がコロナ禍で行ったサービス

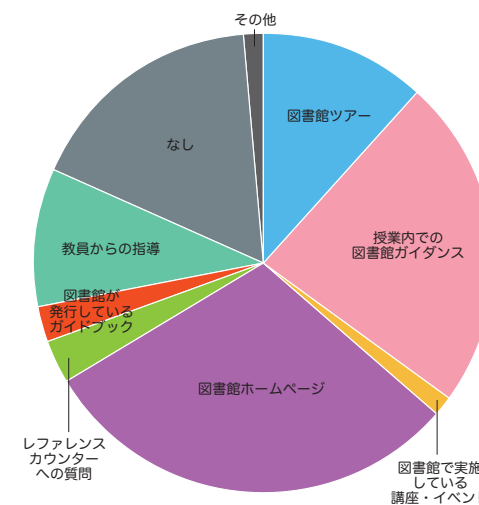


コメント

満足度調査においては、「設備・環境」「蔵書」「スタッフの対応」「図書館がコロナ禍でおこなったサービス」において、実際に利用した人のうち「とても満足」、「満足」と回答された方は6割以上を占めました。各項目、いただいたご意見を踏まえ引き続き更なる充実をめざします。

図書館の使い方について学んだ手段について

図書館の使い方などに関する情報について学んだ手段の中で最も役にたったもの（択一）



■ 図書館ツアー (館内紹介動画の視聴を含む)	11.8%
■ 授業内での図書館ガイダンス (オンラインでの実施やオンデマンドを含む)	23.4%
■ 図書館で実施している講座・イベント (びら講演会など)	1.4%
■ 図書館ホームページ	29.9%
■ レファレンスカウンターへの質問 (リモートやメールを含む)	3.1%
■ 図書館が発行しているガイドブック (例：Library Guideなど)	2.5%
■ 教員からの指導	9.7%
■ なし	17.0%
■ その他	1.2%

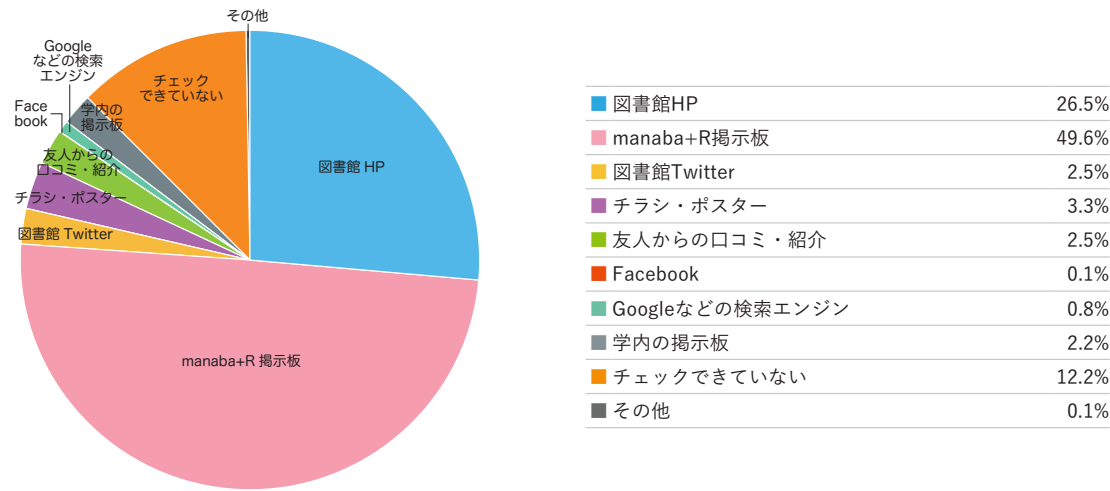
コメント

最も多かったのは「図書館ホームページ」（29.9%）でした。図書館では、利用者の皆さんがより高度で効率的な情報収集ができるよう、さまざまな情報を図書館ホームページへ掲載しています。図書館の最新情報は図書館ホームページトップ画面のNewsに掲載しています。

▶ [立命館大学図書館](#)

図書館のイベント・サービスの情報について

図書館のイベントやサービスに関する情報を得ているツールとして最も有効なものはどれですか？（択一）



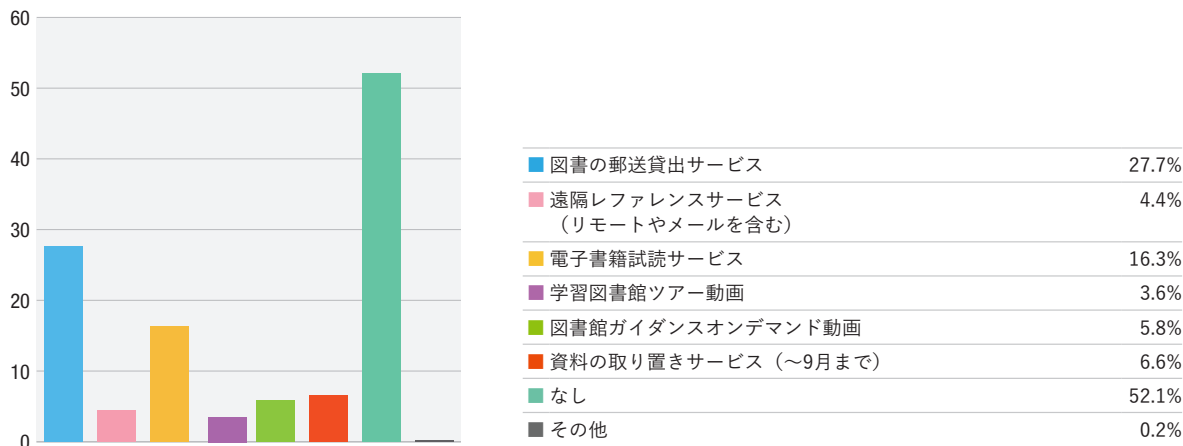
コメント

図書館に関する情報は、図書館ホームページをはじめ、manaba+Rなどでお知らせしています。図書館で実施する企画や、サービス内容について更新しています。2019年度より立命館大学図書館Twitterアカウントも開設していますので、こちらも是非ご覧ください。

▶ [立命館大学図書館Twitterアカウント](#)

コロナ禍の図書館サービスについて

図書館がコロナ禍で実施したサービスのうち、実際に使ったことのあるサービスを教えてください。（複数選択可）



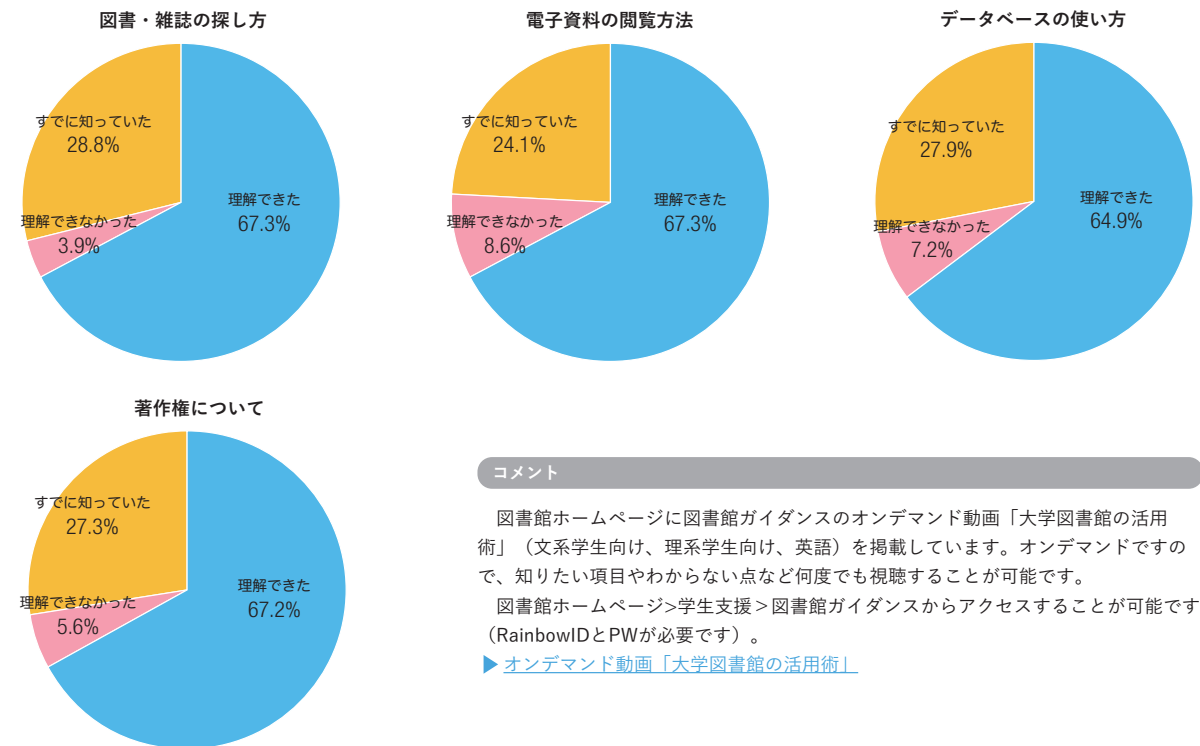
コメント

コロナ禍で実際に使ったことのあるサービスで最も多かったのは「図書の郵送貸出サービス」（27.7%）でした。図書の郵送貸出サービスは2020年4月から限定的にコロナ禍で始まったサービスです。現在はオンライン授業など来館が困難な立命館大学に在籍する学部学生・大学院生を対象に、図書の郵送サービスを行っています。利用方法は図書館ホームページで確認してください。

▶ [図書館サービスについて](#)

図書館ガイダンス動画「大学図書館の活用術」について

コロナ禍では図書館ガイダンスをオンライン中心に実施しています。図書館ホームページに掲載している図書館ガイダンスのオンデマンド動画「大学図書館の活用術」を視聴（授業内での視聴を含む）して「理解できた」項目について教えてください。（択一）
※全回答者（5,298名）から「視聴をしていない」と回答したを学生を除いた回答者数を分母としています。



コメント

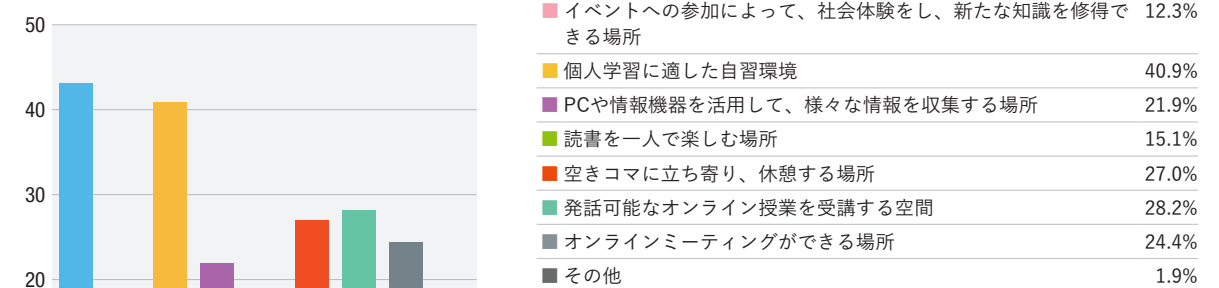
図書館ホームページに図書館ガイダンスのオンデマンド動画「大学図書館の活用術」（文系学生向け、理系学生向け、英語）を掲載しています。オンデマンドですので、知りたい項目やわからない点など何度でも視聴することが可能です。

図書館ホームページ>学生支援>図書館ガイダンスからアクセスすることが可能です（RainbowIDとPWが必要です）。

▶ [オンデマンド動画「大学図書館の活用術」](#)

コロナ禍で“ぴあら”に期待すること

コロナ禍で“ぴあら”に期待することを選択してください。（複数選択可）



コメント

ぴあらでは、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いながらインタラクティブに学習できる環境や発話可能なオンライン授業を受講できる環境を整えています。個人学習やディスカッション、会話による学び合いができる施設です。みなさんの利用目的に合わせてさまざまな使い方ができます。

▶ [ぴあら](#)

今回いただいたご回答、ご意見は、今後の図書館サービス向上の参考とさせていただきます。今後とも立命館大学図書館をよろしくお願いいたします。